

<https://blog.goo.ne.jp/ivelove/e/27ccec00b8a1f784b5b4fef20a69339e>

<北海道>アイヌ研究者の功績たたえ ピウスツキ没後100年

2018-07-30 | アイヌ民族関連

HTB 7/29(日) 21:01 配信

アイヌ民族の先駆的な研究で知られるポーランドの人類学者ブロニスワフ・ピウスツキの没後100年を記念したイベントが北大で開催されました。

ピウスツキはロシア支配下だったポーランドで政治犯としてサハリンに流刑され、その後の生涯をアイヌ研究に捧げました。アイヌの女性を妻とし、アイヌ民族の肉声を記録するなどの詳細な研究は高く評価されています。駐日ポーランド大使館のマリア・ジェラフスカ所長は「来年は日本との国交樹立100年。中でも北海道はピウスツキが何度も訪れて研究した長いつきあいが続いている大切な場所です」とあいさつしました。参加者は識者による講演やポーランドで放送されたドキュメンタリー番組の上映などで研究を振り返り、改めてその功績をたたえました。

<https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20180729-00000006-htbv-hok>

<https://blog.goo.ne.jp/ivelove/e/7205e5d496352895e1ce6389f26bca33>

アイヌ民族研究者ピウスツキの没後 100 年で慰霊式

2018-05-18 | アイヌ民族関連

HTB 北海道テレビ 2018/05/17(木) 19:11 掲載

<https://www.youtube.com/watch?v=6IgCp4p9k5Q>

ポーランドのアイヌ民族研究者、ブロニスワフ・ピウスツキの没後 100 年の慰霊式が、ポーランド大使館の領事も参加して胆振の白老町で行われました。

ピウスツキは初期の蓄音機・蝋管を使ってアイヌ民族の肉声を録音するなど世界的なアイヌ研究者として知られています。白老町にもひと月ほど滞在したことから胸像が建てられていて、没後 100 年の命日にあたる 17 日は、伝統舞踊などカムイノミの儀式を行い、慰霊をおこないました。

https://www.htb.co.jp/news/archives_1377.html

<https://blog.goo.ne.jp/ivelove/e/49df6e6c2be60faf9e1b7b78a66e49b0>

アイヌ民族首長「バフンケ」の遺骨返還へ 北大、遺族の要請受け

2018-07-24 | アイヌ民族関連

北海道新聞 07/24 02:25 更新

昭和初期に樺太(サハリン)から研究者が持ち出したアイヌ民族の首長バフンケ(1856～1920年ごろ、日本名・木村愛吉)の遺骨が、北大から遺族に返還される見通しとなった。北大はこれまで、身元が特定できた34体の遺骨のうち4体を地元のアイヌ民族関係団体に引き渡した。バフンケの遺骨は34体の一つで、写真や逸話が残る有力者の遺骨返還は初めて。

バフンケは明治時代、漁業などで財を成し、樺太の東海岸の「アイ」と呼ばれたコタン(集落)の首長を務めた。言語学者の金田一京助や、アイヌ民族の先駆的研究で知られるポーランド人学者ブロニスワフ・ピウスツキの書籍などに記録がある。ピウスツキは、バフンケのめいのチュフサンマと結婚した。

北大が2013年に公表した遺骨収集の調査報告書によると、バフンケの遺骨は1936年(昭和11年)8月、当時の北海道帝国大(現北大)の医学部が、樺太南部の栄浜村相浜のアイヌ民族の墓地から解剖学の研究資料として収集したとされる。

遺骨の受取人は、ピウスツキとチュフサンマの孫で横浜市の会社経営木村和保(かず やす)さん(63)。知人の研究者から北大に祖先の遺骨が保管されていると聞き、返還を申し入れた。返還の具体的な日程は今後、大学側と協議する。木村さんは「遺骨は戻ってきても収集の詳しい経緯は分からないまま。北大には謝罪と誠実な説明を求めたい」と話す。

アイヌ民族の遺骨は国内12大学や博物館などに1600体以上あるとされ、国外の博物館などにも保管されている。北大が身元を特定した34体のうち、日高管内浦河町の4体は昨年10月、アイヌ民族有志の団体「コタンの会」に返還された。8月には、十勝管内浦幌町の13体が浦幌アイヌ協会に引き渡される予定だ。(斉藤千絵)

<https://www.hokkaido-np.co.jp/article/211550>

<https://blog.goo.ne.jp/ivelove/e/08da50b98313eed72d9617a7cf799c6d>

樺太アイヌの遺骨 初返還へ(動画)

2018-07-31 | アイヌ民族関連

NHK 07月30日 18時28分

戦前、北海道大学が樺太、今のサハリンから研究のため掘り出したアイヌの有力者の遺骨が返還されることになりました。

日本の大学が樺太で掘り起こしたアイヌの遺骨が遺族のもとに戻るのは初めてとなります。

遺骨が返還されるのは、樺太の東海岸にあったアイヌの集落、「アイコタン」をとりまとめていた有力者バフンケ、日本名、木村愛吉です。

北海道大学の医学部が昭和11年、研究資料として樺太のバフンケの墓を掘り起こし学内で保管していました。

北大ではアイヌの遺骨を返還する政府の方針を受け、おとしから遺骨の情報をインターネットなどで公開したところ、神奈川県の木村和保さんがバフンケの兄のひ孫にあたることがわかり、30日、返還に向けた話し合いを行いました。

話し合いは非公開で行われましたが、この中で大学側は遺骨が掘り起こされた経緯などについて詳細に説明したということで、木村さんは返還を受け入れることにしたということです。

今後木村さんは、遺骨の埋葬場所などを決めるなどした上で出来るだけ早く遺骨を受け取ることにしています。

木村さんは、「親族の遺骨が掘り出されたことを80年もたってから知ることになったが、遺骨は確実に葬れるようにしたい」と話しています。

返還が実現すれば日本の大学が樺太で掘り起こしたアイヌの遺骨が遺族のもとに戻るのは初めてとなります。

<https://www3.nhk.or.jp/sapporo-news/20180730/0001915.html>

<https://blog.goo.ne.jp/ivelove/e/84e9866167790889185ba16e1400a77b>

樺太アイヌ 遺族会設立 「遺骨は末裔が慰霊・供養」 / 北海道

2018-06-04 | アイヌ民族関連

毎日新聞 2018年6月4日 地方版

旧樺太(サハリン)に暮らしていた樺太アイヌ(エンチウ)の子孫らが3日、大学や研究機関などに、研究材料として保管されているアイヌ遺骨の返還を目的とする「エンチウ遺族会」を設立した。

遺族会は、政府による遺骨の集約に反対し、樺太アイヌの遺骨はその子孫が引き取るべきだとして、団体として遺骨返還を求めていく。返還された場合は適切に慰霊、供養し、旧樺太で再埋葬することも含め検討する。当面は樺太アイヌ(エンチウ)協会の会員ら20人が中心となって活動し、会長には同協会の田沢守会長が就いた。

政府は今年5月、北海道大など全国の大学が保管するアイヌ遺骨について、これまで遺族のみとしていた返還の対象を、出土した地域に縁のあるアイヌ団体にも広げる方針を決めた。一方、身元不明や引き取り手がない遺骨は、2019年秋にも白老町に完成予定の慰霊施設に集約するとしている。

田沢会長は「国の政策では樺太アイヌについては触れられてもいない。エンチウ(樺太アイヌ)の遺骨はエンチウの末裔(まつえい)が引き取って慰霊・供養すべきで、当事者として意思を表明し行動しないといけない」と話した。【安達恒太郎】

<https://mainichi.jp/articles/20180604/ddl/k01/040/123000c>